

令和5年度福島県立湖南高等学校第5回学校運営協議会 議 事 録

❖日 時 令和6年2月14日(水) 14:30~16:10

❖場 所 湖南高等学校 図書室

❖参加者 委員(敬称略・順不同)

佐藤 忠男、石田 慶仁、満田 仁一、桑名秀一郎、薄 良枝、片平 力也、山口 正国、
野口 智行

(欠席:小山伝一郎、大内 紀男、鈴木 勝美、和田 祐樹)

事務局

菊池由喜男、会田 房男、森 修、五十嵐 稜

(出張:高柴 有一、渡部実和子 授業:熊田 厚志)

❖内 容

1 開会のことば 菊池教頭

2 会長あいさつ 満田委員

小山会長が体調不良のため、本日欠席です。代わりに挨拶をいたします。今回は学校評議員と運営協議会の合同開催ということで、皆様にはお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。学校運営協議会は本年度最後となりますので、皆様から忌憚のない御意見をいただき、進めてまいりたいと思いますので、よろしくをお願いします。

3 校長あいさつ

本日はお忙しいところ御参集いただき、誠にありがとうございます。本日は5回目の協議会で今年度最後となります。今年度の課題と次年度に向けた取り組みに対する忌憚のない御意見をよろしくをお願いします。

さて、若干お時間を頂き、校内の様子をお伝えします。まず、2月9日に3年生21名の卒業認定を行いました。これまでの御指導並びに御協力に感謝いたします。なお、3月1日の卒業証書授与式については、昨今の状況を鑑み、各団体の代表者の方に絞らせていただき御案内申し上げますので、御了承願います。

次に、令和6年度の入試状況ですが、本日の正午に出願先変更の受付が終了し、現時点で22名の出願がありました。昨年度は19名でしたので3名のプラスとなり、全国的にも受験生が減少している中、生徒たちの取り組みが良い方向に進み、本校の学校運営が理解されているものと思っております。3月5日、6日の試験に向け、滞りなく準備を進めて参ります。

また、2月10日(土)には「第1回ぬくぬく雪灯籠まつり」を開催しました。地域の皆様の御協力をいただき感謝申し上げます。このイベントは、実行委員長を務めた加賀さんから、昨年度のコミュニティ・スクールの反省に「一般の方も参加できるイベントを湖南高校生が企画したい」という意見があったことから実現したものです。事前に運営協議会の委員の皆様には、町内でこんなことをやりたいとお話ししていましたが、実際には城北埼玉高校生との準備段階から当日の運営まで、すべて生徒に任せて進めさせていただきました。不備は多数ありましたが、「生徒たちでここまでできる」というのが率直な感想です。来場された方々からも温かい言葉をいただき、「来年はお手伝いするよ」、宣伝に対するアドバイス、イベント盛り上げの話など。高校生の取り組みが町の方々に伝わり、今後は地域活性化の起爆剤になるのではないかと、期待を感じさせる取り組みとなりました。さらに、桑名委員もいらっしゃいますが、蕎麦の提供については、「自分たちの力で町の方々をもてなす」という意見から、すべて生徒の手で準備し提供してくれました。これまでの

4年間継続した学びの集大成により、生徒達は「できる」という意識を高めてくれたものと思います。また、「米粉かりんとう」は菅野さんの御指導により、2年生の総合的な探究の時間で6次化商品の開発を具体化したものです。こちらコミュニティ・スクールでの学びを直接生徒が形にしています。このように地域の方々の御協力により、自立した生徒の育成に繋がっていると感じました。本当にありがとうございます。併せて、今回、来場された方々より多くの浄財を頂きましたのでお知らせします。合計49,112円となり、こちらはすべて能登の復興支援に寄付をさせていただきます。

最後に、議題の中で次年度の運営協議会委員についてのお話もさせていただきますが、挨拶の中では生徒達が活躍する良い話だけをしましたが、まだまだ改善していかなければならないことがあります。生徒の「学び」や地域活性化の取り組みの継続のため、今後とも委員の皆様にご協力を賜りたいと思っておりますので引き続きよろしくお願いいたします。

長くなりましたが、本日はよろしくお願いいたします。

4 学校からの報告事項 議長 満田委員

(1) 第4回学校運営協議会議事録について 菊池教頭

※ 資料P2～4参照

(2) コミュニティ・スクールの取組み及びアンケート結果について

※ 別冊資料「令和5年度コミュニティ・スクール活動記録」参照 菊池教頭

※ 資料P5～9参照 森教諭

菊池教頭： 昨年まで授業外の放課後等で取り組んできたものを、今年は「総合的な探究の時間」の授業時に落とし込んだことから、教職員間での共通認識と連携が遅くなってしまった。次年度に向けた引継ぎの中で、継続してできるように連携を図っていきたい。

また、アンケート結果から生徒も色々なイベントを開催したいという意見もあり、今後検討をさせていただきたい。

(3) 令和5年度下半期の教育活動を振り返って

ア アンケート結果について 菊池教頭

※ 別冊資料「学校評価（後期）に関するアンケート集計結果集」参照

イ 各部（教務、生徒指導、進路指導部）からの報告 菊池教頭

※ 資料P10～13参照

ウ 事務からの報告 会田事務長

※ 資料P20参照

エ 各委員からの意見等の確認 菊池教頭

※ 資料P21～22参照

・質問・意見等

桑名氏： 生徒からの意見にもあったように、今年度は湖南高校と地域が密着した活動ができたのではないかと思います。

満田氏： 雪灯籠まつりは生徒主体で行ったという説明があり、生徒自身も変わってきた様子がみられる。

桑名氏： 蕎麦についても生徒は自信をつけてきた。もっと多くの方々に生徒が打つ蕎麦を提供し、美味しく食べてもらいたいという考えを持っていると思う。生徒には自分たちで計画して、自分たちで提供できるというものどんどんやってもらいたい。今年度の商工祭がそうだったように、高校生の活動が地域の方にも活気を与え大変喜んでくれた。

5 協議事項

(1) 令和6年度のコミュニティ・スクールの活動について 菊池教頭

※ 資料P23参照

- ・令和6年度の活動予定について各委員より御意見をいただいた。

桑名氏： 生徒たちは蕎麦打ち、販売だけでなく、蕎麦打ち指導も行っているので継続的に活動してほしい。

満田氏： 新聞などで取り組んでいることは分かるが、「湖南高校だより」によって細かい取り組みや具体的に活動を知ることができたので継続的に発行してほしい。その取り組みから生徒もますます自信がついてきているのではないかと感じている。

桑名氏： 今回のFMラジオへの出演は、ふくにじマルシェ2023がきっかけか。

菊池教頭： 司会としていらっしゃる方が神奈川でラジオ番組を持っており、是非高校生が主体となったラジオ番組をつくりたいということで、本校のボート部の生徒に声がかかった。

片平氏： インスタグラムを見ると、赤津の天狗祭りの投稿があり面白い。湖南町に昔からある文化的な行事もやれなくなってきており、生徒たちには地域の文化的伝統行事を伝えていける担い手にもなってもらえればと思う。

薄氏： 昔は地域の子どもたち限定であったが、現在は子どもたちが減ってきたため、様々な子どもたちも受け入れ、文化的に伝統行事を残していければと思う。赤津の塞の神や麓山様もそうである。

桑名氏： 昔は参加者に縛りがあったが、現在は無くなってきている。

薄氏： 受け入れる側がどんどん受け入れたほうが良いと思う。

桑名氏： 中野の夏祭りにも湖南高校生が参加し、盛り上がった。

薄氏： 祭りを盛り上げるのは若い人が一番だと思う。

満田氏： 門松を集めるのも以前は子どもがやる行事となっていた。今はそういうこともなくなってきている。文化的伝統行事は少なくなってきたが、残っているものもある。運営協議会委員の中にも、地域の行事の実行委員になっている方もおられるので、今後高校生も一緒にやれるような伝統行事が実施できればよいと思う。

桑名氏： 盆踊りでの太鼓の叩き方なども高校生に継承させていければ、文化的伝統行事もまだまだ繋げて行けるのではないか。

満田氏： 人が少なくなってきているのが一番の課題である。

桑名氏： 地元の高校生だけでなく、市内の高校生にも体験して楽しんでもらいたい。

薄氏： 蕎麦部だけじゃなくて、伝承部などの活動もできると良いのではないか。

佐藤氏： 以前、会津の高校生が、地元の早乙女踊りをやる人が減っており継承できないということで、地域の伝統行事を引き継いで実施したというニュースがあった。早乙女踊り協会も休業中だったが、高校生が入ったことで存続できた。湖南地区も同様に、高校生が継承してもらえると、湖南の観光資源になり、湖南に行かなければ体験できない行事として残っていくのではないかと思う。

薄氏： 伝承部として、湖南地区の歴史を観光し、探して歩くというのもよい。

満田氏： 小学校では、早乙女踊りなんかは5年生か6年生でやっている。文化祭などで披露する場所もあり、継承している。

- ・令和6年度の学校運営協議会開催時期・回数について 菊池教頭

桑名氏： 開催時期や回数(年5回)は良いが、開催する時間帯の調整もしていただきたい。

菊池教頭： 後日、開催日時等について提案させていただきたい。

(2) スクール・ポリシーについて 野口校長

※ 資料P24参照

- ・内容と文言の確認

桑名氏： 小学校、中学校、高校と子どもが変わっていく場だと思う。湖南高校を選んでくれているということで、資料に記載されている通り、過去の自分にとらわれずこれからの自分を作り上げていくというのは大切なところだと思う。

満田氏： 今年の入学志願者も増えているのは、学校や地域が取り組んでいることが認められているお陰でもあると思う。過去にとらわれず湖南高校に来て頑張るというのが浸透してくれればと思う。

薄氏： 資料に記載されている「郷土愛を育む」というのが非常に良い。

(3) ルーブリックについて 菊池教頭

※ 資料P25～27資料

薄 氏： 昔は「5・4・3・2・1」評価だけであり、本当に自分ができているのかが不明であった。こういうのがあるとよいと思う。

野口校長： 補足として、スクール・ポリシーの4つの観点をさらに細かくして反映した形としている。またこれをもとに各教科の評価を作らせていただき、このルーブリックが湖南高校の評価の基準となればと考えている。

佐藤氏： 生徒としても学校評価アンケートなどもあり、評価するものが多く、大変になるのではないか。

野口校長： 学校評価アンケートは学校としての取組みについての評価であり、ルーブリックは自分(生徒)自身がどこまで成長したかがわかるものである。これは記録を積み重ねていくものである。

(4) 令和6年度学校運営協議会委員について 野口校長

※ 資料P28～29参照

・基本的には次年度も継続をお願いしたい。家庭等の状況次第では、お声がけしていただければと思う。

・福島県立湖南高等学校運営協議会規約(別表)委員名修正について。

「阿部 洋平」「二瓶 正仁」→「片平 力也」「山口 正国」

・3月末までに報告する必要があるため、2月中に報告していただきたい。

(5) その他

佐藤氏： 2年生の地域ミライ探究「つなぐ班」がつくる湖南町観光パンフレットについて、あれば頂きたい。

菊池教頭： まだ完成に至っていない。現在制作している状況であり完成次第お知らせしたい。

野口校長： 先日の総合探究発表会で見たときには、観光地であったり食事処であったりが入れ込まれており、高校生らしい視点で準備が進められている。

佐藤氏： 完成したら公民館にも置かせていただきたい。

6 その他

・蕎麦プロジェクト通信2023について。 森教諭
別紙資料「蕎麦プロジェクト通信 2023」参照

7 閉会のことば 菊池教頭